

## 令和元年度の年次評価の進め方について

### 1. 背景

エコチル調査の実施状況の評価については、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施している。

企画評価委員会では、こうした評価体系の中で、環境省及び実施機関が一体となった事業として、エコチル調査全体について、第三者的な観点から評価を行うこととしている。

その中で、今後、学術論文の発表や国民に対する情報発信など、調査成果の社会還元をより一層推進する時期を迎えるため、エコチル調査の評価を行う上では、これらの取組についてより重点的に、情報収集や評価を実施することが重要となる。

このような背景を踏まえ、平成30年度エコチル調査第2回企画評価委員会において、「エコチル調査の進展を踏まえた実地調査と評価について」(別紙1)に基づき、エコチル調査評価ワーキンググループを拡充した上で、今年度の評価を進めることとされた。

### 2. 年次評価の主な方法(案)

#### (1) 実地調査

実地調査チェックリストに基づき、コアセンターと連携して、個人情報管理の状況、データ利用及び成果発表のルールへの順守状況等を確認する。その際、各ユニットセンターの負担や公平性に留意し、通年において評価可能である項目等について実地調査を実施することとする。

#### (2) 評価ワーキンググループによるヒアリングと評価書案の作成

事前に、環境省及び各実施機関は自己点検を実施し、実地調査結果や自己点検を踏まえ、評価ワーキンググループにおいて、ヒアリング記載シートを用いながら環境省及び実施機関にヒアリングを行い、当該ヒアリング結果等を踏まえて評価書案を作成する。

### 3. 新たな評価の視点について(案)

(1) 調査成果の社会還元の評価については、従来 PDCA の取組の中で、コミュニケーション活動等の評価しており、今年度は単純な広報活動(一方向性のチラシの配布等)とは別に、イベントへの参加人数や、参加者へのアンケート・ヒアリング結果等について情報収集を行い、PDCA の取り組みとして、より重点的に評価を行う。

(2) ユニットセンターの人員体制等はそれぞれ異なるため、学術論文の発表に係る評価については、各センターから発表された学術論文について、論文数だけでなく、その質も含めて総合的に評価し、優れたユニットセンターをあげることで、ユニットセンターの評価への加点要素として扱うこととする。

## エコチル調査の進展を踏まえた実地調査と評価について

### 1. 背景

現在、環境省、コアセンター、メディカルサポートセンター及び、ユニットセンターの自己点検、環境省の実地調査（毎年、10月から11月頃に実施）等の情報に基づき、評価ワーキンググループにおいて、全体調査及び詳細調査の実施状況や参加率維持のための取組、個人情報の管理状況等に関して評価書（案）を作成している。

今後、学術論文の発表や国民に対する情報発信など、調査成果の社会還元をより一層推進する時期を迎えるため、エコチル調査の評価を行う上では、これらの取組について、より専門的な情報収集が重要となる。

### 2. 対応方針

- 評価ワーキンググループを拡充した上で、従来の取組に加えて、調査成果の社会還元の取組を含めて関係機関から直接情報収集する機会を設ける。
- 実地調査については、年間を通じて実施することとし、個人情報の管理状況等の情報収集や確認を行う。

### 3. 進め方

- 評価の視点や具体的な評価の実施方法については、評価ワーキンググループ（5月から8月頃開催予定）にて決定し、次回の企画評価委員会（9月頃開催予定）に報告する。

#### <留意事項>

情報収集の機会や実地調査の時期については、各ユニットセンターの過度な負担や不公平とならないように配慮する。

また、社会還元を推進する時期においても、参加率を高い水準で維持することは、引き続き重要課題の一つであるとともに、ユニットセンターの人員体制等は大きく異なるため、評価の視点や具体的な評価方法については、これら事情に十分に配慮したものとする。

### エコチル調査評価ワーキンググループ委員名簿

氏名	所属
有村 俊秀	早稲田大学 政治経済学術院 教授
井口 泰泉	公立大学法人 横浜市立大学 特任教授
田中 政信	公益社団法人 日本産婦人科医会 名誉会員
麦島 秀雄	公益社団法人 日本小児科学会
村田 勝敬	国立大学法人 秋田大学大学院医学系研究科 環境保健学講座 教授
内山 巖雄 (オブザーバー)	国立大学法人 京都大学 名誉教授

平成 31（2019）年度年次評価実施スケジュール及び実施フロー  
（イメージ）

	企画評価委員会	評価ワーキング グループ（WG）	実施機関
2019年 5～8月		第1回WGの開催 ・評価の視点や具体的な評価の実施方法等の検討	
9月	第1回委員会の開催 ・評価の視点や具体的な評価の実施方法の検討結果の報告		エコチル調査実施機関の 実地調査の実施  （年に一度実施）  ・各ユニットセンターにおいて実施の時期において不公平とならないように、個人情報等の管理状況等通年において評価可能であるもの、実地調査が必要であるものを中心に実施。
10月			
11月			
12月			
2020年 1月		第2回WGの開催 ・実地調査の報告 ・関係機関から直接情報収集 ・評価書（案）の作成	
2月			
3月	第2回委員会の開催 ・評価書（案）の審議 ・評価書の策定		改善策の検討及び実施